

「環境未来都市・下川」への疑問 ⑥

ルポライター・滝川康治(下川町在住)

難題山積のバイオ発電構想(中)

原料高騰の懸念も

現在、下川町が想定する木質バイオマス発電の出力は5千キロワット。稼働には、町内の木質ボイラー施設向け燃料の50〜60倍もの林地残材など未利用材が必要であり、町内外から収集・運搬しなければならぬ。

経済産業省の試算では、未利用材の場合、発電に必要な費用の約6割は原料費で占める。農林中金総合研究所の安藤範親氏によると、林地残材を集材・搬出、チップ化するまでの費用は、経産省が想定した原料調達価格を上回る懸念があるという(「農林金融」13年10月号)。再生可能エネルギー買い取り制度(FIT)を使ってまなお、木質バイオ発電は原料

調達コストが高いという欠点を持つ。

「かなり、採算性に悪影響を及ぼす。」

北海道は地域の木材を地域で消費する

「多くの場合、事業として成功していない。とりわけ生木

を下回ると中途半端な施設は技術的に成熟していないため、故

だ。この方式は10年前、オーストリアで

ベル。当面、ガス化発電装置の実用性はないだろう」と話す。

日本の木材需給量の半分を占める製紙用チップの7割は輸入品。残り3割の国産木材チップの価格はここ数年、そう大きな変動はない。

だが、製紙会社などの大規模発電計画で、大きく変わる可

「増えすぎた発電施設の影響で、低質材の市場が破壊され、原材料価格は異常なまでに高騰し、その圧力によって、一部では森が荒れ、

「増えすぎた発電施設の影響で、低質材の市場が破壊され、原材料価格は異常なまでに高騰し、その圧力によって、一部では森が荒れ、

「増えすぎた発電施設の影響で、低質材の市場が破壊され、原材料価格は異常なまでに高騰し、その圧力によって、一部では森が荒れ、

「増えすぎた発電施設の影響で、低質材の市場が破壊され、原材料価格は異常なまでに高騰し、その圧力によって、一部では森が荒れ、

「増えすぎた発電施設の影響で、低質材の市場が破壊され、原材料価格は異常なまでに高騰し、その圧力によって、一部では森が荒れ、

割高な原料の調達コスト

先進地 欧州では失敗が相次ぐ

性能がある。複数の林業関係者は「町外から5万トンもの未

「木質バイオ発電は原材料の安定供給が大きな課題。買い取り制度(FIT)の価格は魅力的で、それを森林整備に振

ヨーロッパの一部の国で積極的に導入されてきた。だが、大方の事業は成功していないようだ。

ドイツ在住の環境ジャーナリスト・村上敦さんは、自身のブログ「フライブルクから地球環境を考

「ガス化発電はツール分の除去が難しく、リスクが大きい」と指摘するのは、自然エネルギーの利活用を通して地域に仕事を創る事業

「ガス化発電はツール分の除去が難しく、リスクが大きい」と指摘するのは、自然エネルギーの利活用を通して地域に仕事を創る事業

「ガス化発電はツール分の除去が難しく、リスクが大きい」と指摘するのは、自然エネルギーの利活用を通して地域に仕事を創る事業

「遠くから原料を集めるほど、輸送費も増える。その結果、原料調達コストが高

「遠くから原料を集めるほど、輸送費も増える。その結果、原料調達コストが高

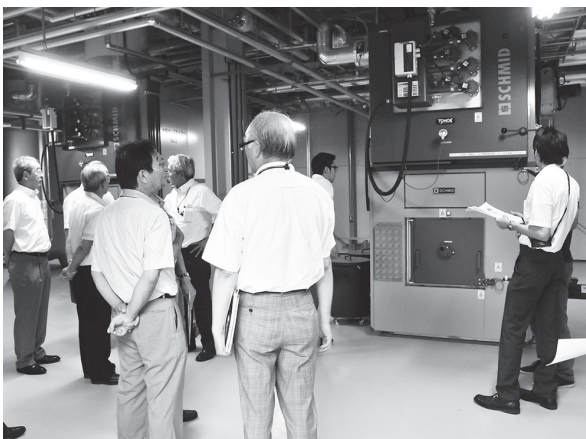
「遠くから原料を集めるほど、輸送費も増える。その結果、原料調達コストが高

「遠くから原料を集めるほど、輸送費も増える。その結果、原料調達コストが高

「遠くから原料を集めるほど、輸送費も増える。その結果、原料調達コストが高

「遠くから原料を集めるほど、輸送費も増える。その結果、原料調達コストが高

「遠くから原料を集めるほど、輸送費も増える。その結果、原料調達コストが高



一の橋の木質ボイラー施設を視察する人たち(9月中旬)。発電よりも熱利用のデータ集めが先だ